



留学生・留学体験紹介



FROM



出身国

ポーランド

(アダム・ミツキェヴィチ大学)

コンスタンチュク・マルタ

KONSTANCIUK MARTA さん

(法文学部 日本語・日本文化研修 留学生)

ニュージーランド医学・看護学研修に参加



1.

2.

3.

1. 滞在都市・ハミルトンにある柔道クラブで練習に参加した際に撮った集合写真(前列右から2番目が田村さん)。2. Waterford Birthing Centre(水中出産を行える施設)を訪問し、助産師の方に質問する様子。3. 海辺の街へホストマザーとドライブに行った際に一緒に食べたフィッシュアンドチップス。



留学先

ニュージーランド

たむら たいち
田村 泰地さん
(医学部 医学科 3年)

海外の医療や文化に触れることで 医療者に必要な国際的視野を養う

グローバル化が伸展していく中で、コミュニケーションツールとしての英語学習のみならず、海外の医療や文化を理解することも今後必要になってくると考え、研修に参加しました。2週間の研修では、医学英語やニュージーランドの医療制度の特色を学んだほか、現地の医療機関を訪問して、そこで働く方々のお話も聞くことができました。多民族国家として異文化を認める包容力を感じた一方で、国家運営の難しさも感じました。

滞在中はホームステイをしていましたが、滞在先の近くの柔道場で、現地の方と一緒に柔道の練習をしたことがとても印象に残っています。私は9歳から柔道を続けていて、せっかくなら現地の方と柔道をしたかと思いき、事前に柔道クラブにアポをとりました。皆さん歓迎してくださって、4回練習に参加させてもらうことができ、友好の証としてその道場のユニフォーム

をいただきました。ホームステイ中は一切日本語を話さない環境でしたが、頑張ることに気づき、英語を話すことへの抵抗がなくなりました。もう少し英語が話せればもっと深く交流できたのにと思う場面が多々あったので、英語学習を継続するとともに、長期留学も視野に入れながら、国際交流の機会があれば積極的に参加したいです。

MEMO ニュージーランド医学・看護学研修(海外研修A)とは?

医療英語のレッスン、ニュージーランドの文化や医療制度に関する講義、現地の学生や医療関係者との交流を通じて、医学英語の基礎力向上とともに医療人としての国際性を身につけることを目的としたプログラムです。ニュージーランドのワイカト工科大学の協力のもと22名が参加しました。

伝統文化が息づく島根の地で 和菓子や神楽などに直接触れる

高校生の頃から日本に興味を持ち、日本には3回くらい旅行で来ましたが、できれば留学して日常生活の中で日本語を学び、文化を体験したいと思っていました。島根大学のある島根について調べると、茶道の文化や豊かな自然、神楽があることを知り、絶対に島根大学に行きたいと思い、推薦をもらうために頑張りました。

来日後、すぐ新学期が始まったので、生活に慣れるのは大変でした。私は人見知りなので、出かける時はいつも緊張していましたが、松江の人はとても優しく、話しかけるとみんな笑顔で応えてく

れました。最も印象に残っているのは、友人に誘われて温泉津に神楽を見に行ったことです。神楽を鑑賞した後、温泉津舞子連中の方に大蛇の頭を見せてもらい説明していただいたので、とても勉強になりました。伝統文化の大切さを再認識するとともに、伝統文化をどのように守っているのかも少し理解できたと思います。

卒業後は母国の大学院に進学し、神楽についてもっと研究したいと思っています。私が実際に体験した和菓子や神楽の良さを、自分の国はもちろん、世界に紹介したいです。



1. 日本人の友人と一緒に、温泉津の龍御前神社で神楽を鑑賞した際の一コマ。2. カラコ工房で初めて和菓子作りを体験。彩雲堂の職人さんに教えてもらいながら春の和菓子を作りました。